

侵入害虫キムネクロナガハムシ及び寄生蜂の研究報告

派遣国名 : タイ王国
受入機関 : カセサート大学 カンパンサン校
派遣期間 : 2010.10.4~2010.11.30

私は、組織的な若手研究者等海外派遣プログラムの支援を受け、タイのナコンパトム県にあるカセサート大学カンパンサン校に2ヶ月滞在し研究を行いました。

現地では、ココヤシの新芽を加害し、2000年代にタイを始めとする東南アジアを中心に大発生してきた侵入害虫キムネクロナガハムシとその寄生蜂の生態および行動特性についてカセサート大学のウィアット准教授の指導の下研究を行いました。



今回、本種のココヤシ新芽、半展開、展開葉及び苗での発育を調べたところ、餌として利用している新芽よりも展開葉及び苗での発育が短いことがわかりました。また、新芽と苗での産卵選好性試験で、多くの雌が苗に産卵することがわかりました。本来の餌である新芽よりも発育がよく、好んで産卵する苗や展開葉をどうして野外で利用しないのか？おそらく新芽を利用することで天敵からの回避、高温や乾燥といった外界の厳しい環境条件を避けることができ、高い生存率を達成できることが示唆されます。今後、半野外条件下でココヤシ新芽及び苗を用いて天敵の効果や、本種と植物の発育の同調性を調べていきたいと考えています。



また、寄生蜂については寿命が約1-2日で、齢の進んだ大きな幼虫を好むこと、寄主の大きさに応じて産卵数を調節し幅広い寄主齢に寄生できること、産卵数は約60卵であることがわかりました。これらの事より本種は短い寿命の中で効率的に寄主を利用する繁殖戦略を持つことが明らかとなりました。

今後、これらの研究成果を活かし、さらなる研究発展へと繋げていきたいと考えています。

最後にこのような素晴らしい研究機会を与えて下さった本事業のご援助ならびに関係者の方々に深く感謝申し上げます。